

「森林官になりたい！」 林野庁長官への手紙から

関東森林管理局 計画部長 藤江 達之



講義の様子

ある日、都内の小学校
6年のH君から林野庁長
官あてに手紙が届きまし
た。「将来、森林官にな
りたいのですが、どうし
たらよいのでしょうか」
というものでした。

これは、東久留米市の
小学校の総合的な学習の
時間において、子ども達
があこがれる職業につい
て学ぶプログラムの中
で書かれたものでした。

そこで、関東森林管理
局から職員をゲストテイ
チャーとして派遣し、森
林官についての出前授業
を行うことにしました。

当日は、H君をはじめ
6年生全員96人と担任の
先生方が待つ教室に、作
業服に腰ナタ・ノコ、熊
よけの鈴、スパイク地
下足袋に脚絆という姿で
うかがいました。(念の



ため、刃物の持ち込みについて事
前に了解をいただきました。(町
の子は森林官に会ったこともなく
話だけではイメージがわからないだ
ろうと考えたからです。

まずは国有林とは何から始まり、
森林官が日々森林を歩き、地域の
人たちの声を聞きつつ、木を育て、
森林の動物にも気を配っているこ
となど、幅広い仕事の内容を説明
しました。一人の森林官が東久留
米市全体の5倍にも及ぶ面積の森
林を管理していることや、地図を
頼りに道のない山の中を歩き回る
といった話は新鮮だったようです。
特に関心が高かったのは、話の内
容よりも、熊よけの鈴や、林尺、
測高器などの森林官必携の「モノ」
でした。

東久留米市と交流のある地区の
国有林の図面を用意したところ、
修学旅行で行ったところが国有林
であることがわかり、掲載された

独自の情報も面白かったようです。
また、森林官が特別司法警察職
員であることを知り、盗石を現行
犯で取り締まった経験談に目を輝
かす子が多くいました。

後日、児童たちからお礼の手紙
が森林管理局に届けられました。
H君は、森林官になりたい気持ち
が強くなったとのこと。また、
サッカー選手になりたかったけれ
ど森林官もカッコイイからなっ
てみたい、と書いた子もいました。
森林の働きや治山のことなどは5
年生で学習したことでしたが、
リアルな体験とともに語られるこ
とにより、興味が深まったものと
考えています。

森林や国有林野事業について、
国有林の職員が直接語っていくこ
との重要性を改めて認識する機会
となりました。



絵: 静岡森林管理署 平田美紗子